

武蔵野美術大学

武蔵野美術大学は、専門性のベースとなる実技試験を重視する一方、実技を課さず学力のみで入学できる選抜方式も実施している。2023年度からは、探究力や応用力を評価する新方式の開設や、油絵学科版画専攻の学問領域の拡大を予定。より幅広く多様な学生を受け入れる方針だ。

一般選抜では基本的に学力と実技を評価

版画専攻は専攻名称と実技試験に変更あり

一般選抜では2022年度と同様の5方式を実施する。募集人員が最も多い「一般方式」「共通テスト2教科+専門試験方式」は、学力と実技の両方を評価。このほか、実技を課さず学力のみを評価する「学部統一方式」「共通テスト3教科方式」「共通テスト5教科方式」があり、これらは一部の学科が対象となる。

学科試験については「一般方式」「学部統一方式」で国語・英語の独自の問題を課す。いずれも高校での学習内容の理解度を見るもので、国語は語彙力や読解力、英語は長文読解、文法や熟語などの基本を押さえておけば解ける内容となっている。上記2方式以外では大学入学共通テストの成績を利用する。

実技試験は各学科専攻の専門性に応じた試験科目が設けられている。基礎的な造形力のもとより、発想力や着眼点、構図の独創性なども含めた、多角的な評価を行う。

また、油絵学科版画専攻は2023年度よりグラフィックアーツ専攻に名称を変更する。学びの内容も版画のみならず絵本やアートブック、イラストレーションなど幅広い複製メディア表現に広がる。より多様な表現を追求したい学生を迎える狙いだ。

これに伴い、従来は「デッサン」のみだった実技試験に2021年度より「イメージ・ドローイング」が加わり、2023年度からは新たに「鉛筆デッサン」が加わる。この変更により、デザイン系学科の選抜対策を行ってきた受験生は併願が容易になる。

多様な資質を評価する総合型選抜

2023年度は新方式を開設

限られた時間内で作品を制作する試験では力を発揮できない受験生や、一般選抜で測ることが難しい能力を評価する総合型選抜。一般選抜の枠には収まらないが、魅力的な資質を持つ学生を受け入れる狙いだ。募集人員は全体の約2割強。なお、視覚伝達デザイン学科を除いた全学科対象の「前期」試験や、一部の学科対象の「後期」試験を実施するなど、選抜の趣旨については2022年度から大きな変更点はない。

試験内容は学科や専攻ごとに異なるが、主にこれまでに制作した作品（ポートフォリオ）の審査と面接試験を課す場合が多い。具体的な内容については今後、大学が公開する学生募集要項を確認してほしい。

作品（ポートフォリオ）の審査では造形力や作品の独創性、表現の豊かさなど、受験生個々の魅力を積極的に評価する。面接試験では作品の制作意図、制作に対する熱意、大学での学びに対する意欲を重視する。また、デザイン系学科においては作品のコンセプトを伝えるプレゼンテーション力も評価の対象だ。

さらに、2023年度より工芸工業デザイン学科において「ワークショップ方式」、クリエイティブイノベーション学科において「探究力重視方式」を新設する。これに伴い工芸工業デザイン学科、芸術文化学科で開設されていた「英語力重視方式」は廃止となる。「ワークショップ方式」と「探究力重視方式」の具体的な内容については大学が公開する学生募集要項を確認してほしい。

INFORMATION

オープンキャンパス

[オンライン型]

6/11・12
SAT SUN

8/27・28
SAT SUN

[来校型]

7/16・17
SAT SUN

詳細は受験生サイトで確認してください。



大学企画グループ
入試チーム チームリーダー
江崎 元

期待する受験生像

この不確実な世の中で、既成概念や常識にとらわれない「創造的思考力」と、それを実現するための「創造の持久力」をもって未来を切り拓いていく志のある人を求めています。また、武蔵野美術大学の建学の精神は「教養を有する美術家養成」です。教養科目が非常に充実しており、就職先もクリエイティブ分野にとらわれず一般企業で活躍する卒業生も多くいます。受験生のみなさんには、実技のみならず広い領域の学問を学ぶことにも貪欲であることを期待します。本学で深い専門性と幅広い教養を身につけ、社会に羽ばたいてほしいと思います。